

# 東京 ふうてきた 周遊コース組

東京で、昭和三十八年と三十九年の二回にわたって開かれた全九州観光展は、東京および周辺各県の人々に大きな関心呼び起したようだ。

しかも、七月一日から全日空が東京—熊本間の定期航空起を開設し、その距離は急激に短縮されつつあり、近年のレジャーブームによって、九州の観光は一段と活況を呈している。

事実、東京から九州への旅行は、周一周遊券で見ると、三十七年度から三十八年度にかけて、二五〇の増となっており、伸び率は、全国平均をかなり上廻っている。

さて、九州横断道路の開通で、益々九州への旅行者は増加することと思われるが、横断道路を中心とした県内主要観光地への道路整備をはかる一方、通過観光客の足をとめる施設が必要となるのではないか。

その点で、国民宿舎、青年の家、ユースホテルなどがとのいつつあることは非常に歓迎されているようだ。

総合的なPRを……

最近の傾向として、東京—九州の距離

熊本の歴史は遠くは阿蘇に始まり、王朝時代菊地氏の南朝のための孤軍奮闘した戦国を経て、加藤清正公が肥後に封じられ、後細川氏に引継がれ、以後城下町として発展した。

近年第三次産業としての観光産業が大きくクローズアップされるや、瀬戸内海国際観光ルートの開発と共に、九州に於ても、九州国際観光ルートが開発され内外観光客と致し或は観光開発にそれぞれの関係機関に於て進められているのであるが、今や熊本市は之がルートの拠点となろうとして

## 九州観光のかなめ・熊本市

見られな  
いよう  
で

雄大な阿蘇の霊峯或は夢の島天草島と東西に持ち、本市を訪れる三百万余の人々に飾り気のない熊本人の語る肥後弁により旅行者の心を慰めており亦熊本市及び熊本市周辺には豊富な観光資源が無限に点在している。即ち西山、立田山一带の自然美、亦之等の中に点在する数多くの史跡。水郷としての江津湖等に、恵まれた立地条件を具

備している。本市及びその周辺の開発効果を考えるとき、経済的要因が或程度なければ、これら地域の開発は困難であり、企業及び公共施設の誘導効果も充分發揮出来ないものと思われる。とすれば新しい産業の対象となった観光産業は熊本市にとっても、自然の実態に即した施策であると思われる。従来我国の観光行政は、主として団体旅行の受入れに重点が置かれ家族慰安には余りにもかえり

の関係もあって、熊本一県というよりも、九州一周コースとか、九州横断コースといった広域観光が多い。

従って、各県独自のPRと同時に、九州の総合PRセンター的なるものを設け

備している。

最近のレジャーの利用は、その地域性の求める「産業観光」と云う新しい概念を生み出し、我々の観光行政に幅広い展開を求めている。このような情勢を判断し自然資源の積極的な開発、観光施設の分散化、産業観光及び家族観光に対する配慮等、諸問題を中心とした開発を推進しなければならぬ。

て、旅行者の案内、宣伝など、統一された方法を講ずる事も、考えてよいのではあるまいか。

（熊本県東京物産館 高橋主事）

△熊本市観光課▽

つたことがある。阿蘇の風景を撮影するのに供したのだが、どうしてもこの標石が邪魔になって構図が取れない。つまり標石はその景観の一番大事な場所に据っているのだから、当然のようでもあり、一考を要するような気もした。

九州横断のメインストリートから岐れる枝葉の観光地、特に温泉地の俗化は誰かが指摘するように面白くない。居心地のよい客室は大変結構だけれど、大事にすべき古いものは保存していただきたい。それが即ち観光資源だから。

その点では、球磨地方、特に矢岳高原の開発にも力をいれて貰いたい。ここまで書いて読み返してみると、い

## 噴水の交通信号

轟 周 平

が完成すれば、九州の観光に異彩を加えることになるが、全島を挙げての観光、産業づくりには遠大の考慮を払っていただきたいものである。

ただきたい。貰いたい。と当局の方や地方の有識者をお願いばかりしている。観光という仕事が、そんな一部の指導者や、経営者だけで成り立つような印象を与える書き方をしたのは少し恥かしい。

言うまでもなく観光事業を成功させるのは街ぐるみ、県ぐるみである。

熊本人の性格が観光地であるかという点については少々難点があるだろう。しかし、それは標準型に比較した場合のことである。最近の国鉄の「観光希望」の統計では九州がその第一番だそうである。これは、九州の地理的、人情的な面が、ある程度理解されている証拠であるから、そういう観点から見れば熊本人の朴実、無邪気、武骨というような特徴も、それに、世界共通の要求である誠実さを持つことによって、かえって九州らしさを強調する観光資源となるのではあるまいか。県民がみんな旅行者に親切心をもつことである。

街もまた市民のこころを反映させて観光のムードをつくり上げる工夫と努力が欲しい。たとえば、熊本市にこんなものをつくったらどうだろう。水道町交差点の交通信号を大きな噴水塔にするという案である。噴水の交通信号（これは経済同友会S先生の案）それは、林田温泉や国際劇場夏のおどり等の噴水の操作を考

えれば、面白く出来そうな気がする。大甲橋を渡って水前寺に向う観光客に、美しい水の印象を植えつける、観光都市らしい配慮になると思う。

（商業デザイナー）

する蛇ヶ谷自然公園開発も目下話題の焦点になっている。計画では園内には桜、紅葉、つつじ一万本が植えられ、都市公園として専門家に診断を依頼し、青写真も完成している。

その他県立公園小岱山の開発構想も、ハイウエーの建設、自然林の中の動物園、遊園地の設置など計画も豊富。しかし何としてもこれからの観光は点から線に移行しつつあり、菊池川流域温泉郷の開発というものを本質的な問題として種々検討が行われている。

## 観光・行楽 施設の増強へ

△八代市▽

八代観光の看板は今も昔も日奈久温泉と舟出浮・カニ網と相場は変わらない。変るといえば観光客の急増。ここに問題がある。まず、駐車場が足りない。娯楽施設が少ない。道路が狭い。こういつた隘路がかなり目立ってきている。そこで急務とされている駐車場整備だが、これはすでに工事を開始し、子供向きの娯楽施設や温泉センターの計画も進められつつある。

が、もっと本質的に、商店街全体の振興を考えた大規模の遊園地の造成計画がある。これは児童動物園を中心に考えた、アイデアで注目すべき構想。さらに憩いとなる観光地点を市内にバラま

と。例えば、ザボン狩、史蹟や古墳を採るピクニックコース、遙拝橋の桜狩など情緒豊かな、レクリエーション向きの観光計画の数々がある。

## 全市を 観光公園に

△水俣市▽

水俣観光は温泉で代表されるが、湯之見と湯出は夫々ニュアンスが違い、両温泉地の特色を生かすことも大切だが、同時に双方の調整も大きな問題となっている。

これからの計画として、水俣全市を公園化することが考えられている。湯之見温泉地区の高台に国民宿舎を建設し、周辺を公園化する。海岸線の道路沿いにフエニックスやワシントンニヤを、水俣川畔の道路につつじを植えいわゆる道路公園をつくる等々。

水俣台地をみかんで埋め梅一万本を植える運動を起すなど、水のきれいな観光都市水俣の構想はこの点に集中されている。

次号予告

（この項28頁へつづく）

## 観光くまもと 一瞥

阿蘇路ではもう一つ気のついたことがある。最近建てられたものだけれど、名勝、旧蹟を標示するモダンな形のものがある。幾力所にも出来ていて、その場所に貫録をつけている。記念撮影をする人たちのためには、ちよっとしたサービスになっているけれども、先日はこのために困